

木曾川



INDEX.....

ふるさとの街・探訪記《一宮市》

木曾川の流れとともに発展した一宮

AREA REPORT

社会情勢の変化に対応し、
さまざまな改修事業が実施される日光川

気ままにJOURNEY

伝統的な繊維産業の街は、歴史と文化を誇る伝統の街

歴史ドキュメント

液状化を引き起こした東南海地震の被害状況

TALK&TALK

地震のメカニズム、その特徴と今後の課題

民話の小箱

雨こいの竜

木曾川文庫は治水の資料館。
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、
これからの治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。
冬号は、尾張西部地方の中心地、
一宮市から治水及び灌漑事業を中心に
地震シリ-ズでは東南海地震を特集します。

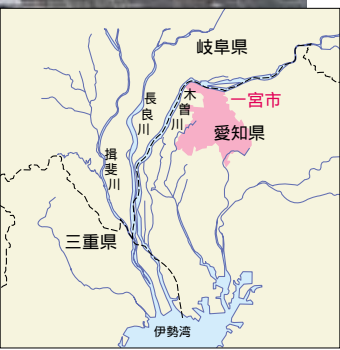


木曾川の流れとともに発展した一宮

一宮は木曾川の清流と豊かな濃尾平野に育まれた街、古代から尾張国に属し、尾張西部地方の中心的な役割を担ってきた。その成長を支えていたのが木曾川の豊かな水源。一方、その歴史は氾濫を繰り返す木曾川の治水の道のりだったといえます。江戸以降、この地は全国でも有数の繊維の街として成長。現在は、多彩なプロジェクトを計画し、将来の発展をめざしています。



一宮市街地をのぞむ

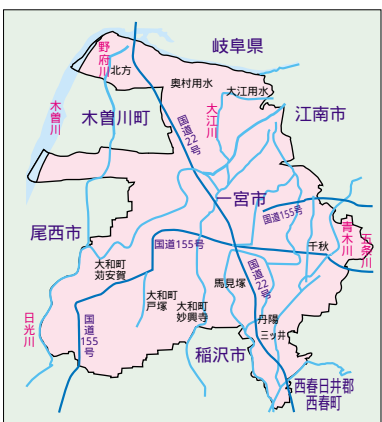


織物で栄えた木曾川左岸の町

一宮市は濃尾平野のほぼ中央、愛知県の北西部に位置しています。標高は7m、15mとほぼ平坦。市の北側から西側にかけて木曾川が流れ、市内には青木・日光・野府川が流れています。古くから桑や綿花などの生産が盛んで、江戸期に始まる綿織物から現代の毛織物まで一貫して全国有数の繊維産業の一大中心地として発達してきました。

尾張平野のあけぼの

尾張平野に人々が住み始めたのは、縄文時代。しかし、狩猟中心で台地や丘陵を中心に生活していた縄文の人々が、海拔10m前後の一宮に居住していたとは、明治や大正のころは考えられていませんでした。これに大きな波紋を投げかけたのが、大正一四年、市街地の東部に位置する馬見塚から出土した打製や磨製の石のおのすり減り具台から土掘り道具に使われていたと考えられています。この出土が後の馬見塚遺跡の発見につなが



馬見塚遺跡

ついできます。愛知県の史跡に指定されている馬見塚遺跡は、その出土品の多さと広域であることから、定住性の高い大集落だったと思われる。古墳時代の遺跡としては、今伊勢古墳群、浅井古墳群などがあります。

古代の治水事業と広野河事件

律令時代、平野地帯に広汎に布かれた秦里制は河川より導いた人工灌漑によって潤され、その水路の開発や維持は国家の手で行なわれました。この用水維持にあたり、小規模な修理の場合は水利利用者の労働力が充てられ、新規の土木工事や池や堤防の築造など、大規模な治水工事については、律令時代の税制の一つである雑徭が充てられました。その監督には国郡司があたっています。

濃尾平野を形成する木曾川は、この地の人々に水を供給する役割と同時に、その耕地を破壊する力ももっていました。天平六年(七三四)の文献には、修理堤防といふ記載が認められ、国衙の費用で堤防の修理費用が支出されていることを示しています。

このような修理の具体的な例として、神護景雲三年(七六九)の大洪水があります。この年の九月、尾張国では、美濃国との国境を流れる鷯沼川(木曾川)で河道が没するほどの大洪水が発生、政府の土木専門家、解工使の派遣をまつて、その指導のもとに河道復旧工事が雑徭使役によつて行なわれたと思われます。その後木曾川はしばしば氾濫をおこし、宝龜六年(七七五)には伊勢、美濃、尾張を襲った異常風雨により二百余人の生命と千余頭の牛馬が死亡。国分寺をはじめ多くの寺が倒

真清田神社と妙興寺

文献に真清田神社の名が初めて見られるのは、承和一四年(八四七)。平安時代初期、国司がその国の神社を参拝するとき、最初に出かける神社を「一の宮」と呼んでいました。尾張国の一の宮が真清田神社で



妙興寺勅使門(国指定重要文化財)

あったことから、いしかそれが地名となり、現代に至っています。平安初期以来、国衙と深い関わりをもってきた真清田神社が、尾張国一宮としての地位を制度的に確立したのが二世紀初頭。神社経済の基礎をなす所領は、一宮一帯はもとより、海部郡、愛知郡にも及んでいました。この所領は室町時代になると、武士に次々と侵略されました。



足利義教像(妙興寺蔵)

臨済宗の古刹、妙興寺は貞和四年(一三〇四)この地の領主中山一族により創建。妙興寺は室町幕府の歴代の将軍から手厚く保護され、六代将軍足利義教は、富士遊覧の途中、この寺に立ち寄りしています。これを記念して描かれた、足利義教像は重要文化財に指定されています。

室町幕府の衰退とともに妙興寺の勢力も弱体化していきますが、その後豊臣秀吉や徳川家康、尾張藩主の信仰と保護を受けています。

信長の尾張統一と浮野の合戦

国内が戦乱に明け暮れた戦国時代から信長による尾張統一のころにかけて、一宮付近には多くの城が築かれました。天下をめざす信長にとって、その



浮野古戦場跡

い技術が必要でしたが、その任にあつたのは、一宮在住の真清田神社の宮大工。御囲堤や杵整備の陣頭指揮にあつた伊奈備前守用水路の取水口である杵の設置には、新しい技術が必要でしたが、その任にあつたのは、一宮在住の真清田神社の宮大工。御囲堤や杵整備の陣頭指揮にあつた伊奈備前守

張の統一、これらの城の攻略が実現への道もありました。一宮城は織田信長の家臣、関氏の居城。刈安、賀城も信長の家臣、浅井新八郎の築城。永祿元年(一五五八)の浮野の合戦は、当時清洲城主であった信長が、織田家の宗家である岩倉城主織田信安に、尾張国の覇権をかけて挑んだ合戦でした。浮野原千秋町浮野での激戦は四時間にも及び、ついに岩倉勢を撃破。翌年、岩倉城は落ち、信長は尾張統一を果たしました。

門前町から綿織物の町へ

一宮は尾張一宮として崇拜された真清田神社の門前町として繁栄してきました。境内では早くから近在農民による物資交換が行なわれていたようです。江戸中期になると、綿や大豆などの商品作物が増え、農家の副業による綿織物生産が盛んになりました。このとき使用されるのが先述したうぐすです。こうした商品経済の活性化に伴い、享保二年(一七二七)には市が開設、やがて三八市と呼ばれた近隣の地域はもとより、遠くは信濃・越中などの綿買商人までが集まり、賑わいを見せました。

種類	数	おもな店
綿業関係	124	綿糸32 綿糸28 洋糸16 綿9 唐物8 染糸2 その他6
衣料関係	181	古手134 呉服13 大物8 白木綿4 小間物16 その他6
食品関係	217	生餅47 膏物24 煮売17 味噌漬り17 油2 菓子11 生魚9 麩餅6 餅7 煎餅6、果物6 酒6 芋5 雑物5 焼酎5 砂糖4 餅4 煎餅4 乾物3 うどん3 その他15
穀物・肥料関係	20	米15 穀物7 肥料3
日用品・手工業	169	古道具20 煉油ろうそく17 紙16 唐物16 金物14 瀬戸物11 たばこ11 菓7、筆墨6 傘6 袋物5 扇5 荒物4 附木4 提灯3 仕立屋2 荷締2 竹籠2 唐物2、指物2 桶屋2 その他14
生産手段関係	10	種物3 箕3 その他4
その他	17	
計	738	(数字は店数)

この頃になると、門前町・宿場町としての性格を脱し、地方経済の中心地に成長。その後文政・天保年間(一八一八〜一八四四)になると尾西地方ではいっせいに綿織物マニファクチュアが行われ、南東部は綿作地帯、木曾川沿岸の尾西地方は織物地帯として発展しました。

一宮の女工衰史

一宮地方の織物は、第一次世界大戦を機に綿織物から毛織物へと移行。昭和の初頭には「毛織物王国」一宮の名が全国に知れ渡りま

壊するなど、大被害を蒙っています。これら大洪水による河道の移動は、一方に被害をもたらすと同時に、他方には新たな可耕地や旧耕地の安定を提供するという反面をもち、これをめくって美濃国と尾張国が対立抗争し、やがて武力衝突へと発展しました。

神護景雲三年から九六年後の貞観七年(八六五)、尾張国から広野河、木曾川の分流の河口を掘り広げる工事の申請がだされました。美濃側が土砂の堆積により塞がれ、その水が尾張側の分流へ流れ込み、大水のたびに氾濫していたことが、その大きな理由です。この申請は認可され、翌年七月初頃ほぼ完成という時期に、突如、美濃国の郡司が七百余人の兵を率いて襲来、尾張の郡司が殺傷されるという事件が持ち上がりました。この事件は直ちに中央に報告され、工事は再開されましたが、日をおかずして美濃国の兵が再び工事現場に襲来、両国間の武力抗争に発展することを恐れた尾張側は工事を中断。以後、一時中止の命令が下っています。

広野河事件と呼ばれたこの事件がその後どのように進展し、解決していくのか、その結末を伝える史料はあまりありません。ただ、水をめぐる抗争は、平安初期のころからすでに始まっており、治水は国家の生命線をもにぎる重要な課題であったことがうかがえます。

交通網の整備とともに成長

昭和と一〇年、第二次世界大戦による市街地の大半は焼失しましたが、戦災復興にいち早く着手。織物業も昭和二〇年代後半には戦前をしのぐほどになり、「ガチャマン」といわれるほどの好況期が続きました。昭和三九年には名神高速道路、昭和四四年には国道二号が整備され、また大規模な一宮繊維卸センターが完成するなど、発展の原動力となるさまざまな事業が実施されました。さらに平成九年には美濃と尾張を結ぶ東海北陸自動車道・一宮木曾川インターチェンジが翌年には一宮ジャンクションが相次いで開通。こうした交通網の充実に伴い、繊維産業を中心とした各種産業の育成を図り、やすらぎ、めくもり、そして夢のあるまちのイメージをもと多彩なプロジェクトを推進しています。

明治三年一月深夜、織物工場に大火が発生、二階寄宿舎に寝ていた工女四九人のうち三二人が焼死しています。当時の寄宿舎は、男など入るへからざる様として、窓には鉄格子をはめ込み工女を拘束。鎮火後の遺体は、近親者ですら確認することが難しいほど白骨化していたようです。この事件の三か月後には寄宿舎等の整備や安全性を促す愛知県令が發布されました。

参考文献

- 『新編一宮市史』 上下巻、一宮市、昭和五二年発行
- 『のびく一宮』 一宮市教育委員会平成九年改訂版発行
- 『新こゝ一宮』 一宮市教育委員会平成八年改訂版発行
- 『一九九九一宮市勢要覧』 一宮市、愛知県地名大辞典、角川書店

社会情勢の変化に対応し、さまざまな改修事業が実施される日光川

日光川は、木曾七流とも八流とも呼ばれた木曾川の支流、相次ぐ洪水により流路は幾度も変遷し、江戸中期に現在の河状に整備されました。その後、明治の改修事業や樋門の整備など、社会情勢の変化に応じてさまざまな改修を実施。昭和四十九年及び五一年の洪水を契機に、木曾川への放水路を含む新たな改修計画を策定。流域の安全向上を図るため、放水路の早期完成が望まれます。



明治時代の日光川改修

明治三年、明治政府は農業生産の増大を図るため、耕地整理法を制定公布しました。明治三八年には同法を改正、その改正点は、耕地整理事業に灌漑排水を追加したことです。この耕地整理法を受け一宮市でも耕地整理事業が実施されますが、その事業の契機となったのが、明治三年の日光川改修でした。日光川は、木曾川と庄内川に囲まれた愛知県西部の低平地の排水を担う二級河川でその流路延長は四一km、流域面積は二九五km²です。源流は江南市の西部、濃尾平野の西部の

穀倉地帯を南北に貫流し、名古屋港の西部で伊勢湾に注いでいます。日光川はもと木曾川支流で、流路は幾度も変遷し、多くの大災害を記録しています。天明年間(一七八一〜一七八九)に現在の本川河状に開削改修されました。一宮市内を流れる野府川は日光川水系に含まれますが、この水系が走る一宮一帯は標高五mから七mという勾配がきわめて緩やかな低平地。このため野府川より上流では自然排水が可能ですが、それより下流では、洪水時に広範囲にわたる湛水が生じ、雨水は長時間流域に滞留するという状態でした。この水害

地では、水田の収穫率もいたって低く、水田と畑が混在しており、用水相互の連絡が困難でそのために充分導水できない水田もあり、用水取水口では下流との間に争論が絶えないところが、各所に見られました。こうした不利な諸条件を解決するために、明治三年、日光川改修組合が設立され、日光川・野府川の改修が着手されることになりました。この改修によって漬地ができましたが、この漬地の犠牲を全地区の農家が共同して平等に分担するためには、区画整理による換地を行なうほかありませんでした。こうして改修事業は、耕地整理事業へ切り替え発展することになりました。

日光川改修に端を発した耕地整理は、以下のような効用をもたらしました。
一、低湿地での氾濫は減少し、湿田の乾田化により二毛作が普及するに至った。
二、水田一反の収穫率の増加がみられた。
三、畑面積が減少し水田面積が増加した。
四、地主に小作料収入の増収をもたらした。
五、労働生産力の上昇により、稲作への投下労働力が節減された。この節減された労働力は、一方では、自作農を中心とした農家の場合、養蚕などの畑作へ集約。他方では小作農を中心とした農家の場合は、織物業などにおける賃労働へ向けられた。以上の諸点が主要な結果で、当初の目的は

都市化の進展に伴い新たな改修を

昭和二六年九月、日光川は河川改修計画の建設大臣許可を受け、中小河川改修事業に着手。昭和三四年の伊勢湾台風、昭和三六年の梅雨前線豪雨などの大被害を受けながらも、



日光川上流域一宮市内の湛水

営々と河口から野府川付近の改修を行ない、昭和四〇年代にはほぼ現在の姿ができておりました。しかし、昭和四九年七月の集中豪雨及び昭和五一年台風一五号に伴う豪雨により、流域の約半分が浸水するという被害を受けました。

発生年月日	気象原因	流域の被害状況	外力の諸元	摘要
1953.9.25	13号台風	農地冠水2,553ha 罹災者数15,000人	名古屋港水位T.P.2.33m 161mm/日:55mm/時間	名古屋气象台
1959.9.26	15号台風 (伊勢湾台風)	死者539人 全壊・流出家屋2,983	名古屋港水位T.P.3.89m 104mm/日	名古屋气象台
1961.6	豪雨	床下浸水5,024戸 湛水面積15,932ha	528mm/3日間 300mm/日	津島観測所 本川支川忍
1974.7.25	豪雨	床下浸水1,796戸 湛水面積11,991ha	255mm/24時間 109mm/3時間:45mm/時	東大里観測所
1976.9.8	19号台風 及び豪雨	床下浸水4,566戸 湛水面積15,841ha	294mm/24時間 96mm/3時間:50mm/時	東大里観測所 目比川浸

及び五一年激特事業によって、下流部においては、河口排水機場の建設、堤防の高上げ、補強を行ない、上流部では、日光川、野府川の未改修区間の改修を昭和五五年に完了しました。こうして日光川本川、支川の一連区間が概成しました。しかし、今後さらなる流域の治水安全度を高めるため、さらなる改修事業が望まれます。そこで、昭和四九年、五一年の大災害を契機として、また地盤沈下に対応するため改修計画の見直しを行ない、木曾川に排水する四本の放水路を含む、新たな改修計画を策定しました。

改修計画の考え方

低平地であるという流域の自然条件に加え、昭和二〇年代から急速に始まった交通網の整備や工場地帯及び住宅地の開発などの都市化の進展により、流域からの排水量が大幅に増大。農地から市街地へ、この生活基盤の変化も、その大きな要因です。このため、保水能力の高い田畑が埋め立てられることにより、ただでさえ湛水能力が低い平坦地の排水能力はますます劣化。地下水の汲み揚げによる広範な地盤沈下も、排水能力劣化をさらに助長する要因となっていました。このため、昭和四九年



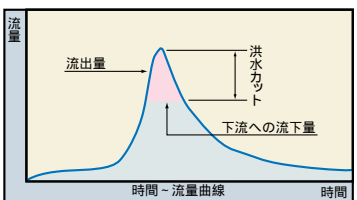
日光川下流部改修状況

よる洪水を安全に処理できるものとし、ます。
・市街化区域は浸水しないものとします。但し、市街化区域内の未開発低地については、近接する現況家屋の地盤高まで盛土されるものとします。
・市街化調整区域の農地については、営農上必要な範囲内で内水排除を行なうものと



日光川3・4号放水路ルート

日光川の改修計画の基本的な考え方は以下の通りです。
・地域内の市街化区域がすべて開発された状態を想定したうえで、三〇年に一回起りうる降雨一時間の雨量が七六mmに



【放水路の役割】
上流からの洪水を一部カットすることにより、下流への流下量を減らします。

参考文献

- 『新編一宮市史』上七巻一宮市、昭和五二年発行
- 『新しい一宮』一宮市教育委員会、平成八年改訂発行
- 『おびゆく一宮』一宮市教育委員会、平成九年改訂版発行
- 『日光川』愛知県、中小河川改修事業日光川放水路
- 『愛知県、昭和六一年発行』
- 『木曾川水系農業水利誌』農業土木学会、昭和五五年発行

濃尾平野を眺望する

ツインアーチ1338

愛知・岐阜・三重の三県にまたがる国営木曾三川公園は、国内最大規模の都市公園です。二世紀の暮らしをより豊かにすることを目標に、昭和五五年から整備が進められています。公園の区域は、上流から三派川地区、中央水郷地区、河口地区の三つに分けられています。
三派川地区の中心となっている地区センターが、一宮市の光明寺地区にあります。ここには、一の宮にちなんで建てられた高さ一三八mの展望タワーがあります。このタワーは、平成七年に完成し、ツインアーチ1338と名づけられました。高さ一〇〇mの展望室からは、遠くの御岳山や鈴鹿山脈の山並みや伊勢湾まで見渡すことができます。また、園内の四季折々に咲き競う花々も魅力。バラ園では約四〇〇本のバラが、花畑では、春はホピーやローズ、夏はマサカオやヒヨウタン、秋はアズキが咲きます。また冬はツインアーチのイルミネーションなどを楽しむことができます。
園内では現在も完成に向けて、施設整備が着々と進んでいます。



138タワーパーク

伝統的な繊維産業の街は 歴史と文化を誇る伝統の街

滔々と流れる木曾の流れのよつこ、この街の時の流れも滔々と重なる歲月は、美しい文化の華を咲かせています。そんな文化や歴史を後世へふるさとを愛する人々の手で語り継がれ、守り継がれています。



おりもの感謝祭 一宮七夕まつり

尾張西部地方の表玄関

名古屋からJR東海線の快速を利用すればわずか10分余り。通勤ラッシュの時間はとうに終わっているはずなのに、ヒジメスランが目立つ列車は座る席もないほどの混み具合。熱心に書類に目を通す人、うたかたの居眠りをむさぼる人など、多くのヒジメスランは一宮を告げる車内アナウンスにそそくさと身支度し、足早に降りていきます。これも尾張西部地方の表玄関、一宮ならではの光景なのでしょう。

全国的にその名を馳せる繊維産業の街は歴史の深さゆえ、文化や芸能を誇る街。とかく織物といふのが、タイトの影に隠れがちなたつたの数の追いかけて、歴史と文化散策の旅にでかけませんか。

真清田神社と一宮七夕まつり

一宮駅から東へ歩いて10分余り。賑やかな都心の一角に、真清田神社の鳥居がそびえています。一宮の名の由来ともなった「尾張国一宮」の真清田神社は、二の宮である大縣神社(犬山市)、三の宮である熱田神宮と並び、尾張地方の守護神として人々の信仰を集めてきました。拝殿前にそそり立つ伝教杉は、比叡山を開山した伝教大師(最澄)が訪れた時に植えたといえらる杉の植継。平安時代に紀實が古今和歌集を撰ぶにあたり、成功を当社に祈って植えたといえらる杉の植継は、拝殿の東にあつて、春になれば今も美しい花を



真清田神社

天火明命

よ。この神社の祭神は、昭和三年には、おりもの感謝祭一宮七夕まつりが創設されました。牽牛・織女星にちなんだこの祭りは、その飾りつけの絢爛豪華さで、仙台・平塚の七夕まつりと並び、日本の三大七夕まつりの一つと称されるほど。真清田神社の門前町として古くから市が開かれてきた本町商店街には、色とりどりの吊り下げ飾りや吹き流しが飾りつけられ、その華麗さはさながら天空に咲いた華のようです。

祭りの開催は、七月第四日曜を中心五日間、時代絵巻さながらの御衣奉獻行列や趣向をこらした衣装やみこしで参加する、躍る七夕パレードなど、ファッションの街織物の街一宮ならではの衣装の数は必見です。

鳥文楽と一宮市博物館

一宮市博物館はこの街の文化遺産を後世に伝える歴史の殿堂です。「ひらけゆく尾張平野」中世の一宮「ひとびとの生活」織物のまち「へ」と四つのテーマに分かれた常設展で、一宮の文化と歴史を紹介しています。市の無形文化財に指定されている、鳥文楽はこの博物館でも上演されます。文楽がこの地に伝えられたのは江戸末期。大毛村の人々が



一宮市博物館

岐草の人から七両で人形を買ひ受けたのが始まりでした。しかし若者たちが人形芝居に熱中し、農事を顧みないので隣の島村に譲られたと伝えられます。

こうして島村は文楽への道を歩き始めるのですが、その背景には幕府老中・水野忠邦の天保改革がありました。この改革は極度な倭約政策をしいたもので、こうした状況下、大阪では文楽は上演できず、人形使いの名人豊松清十郎が隣国の美濃へ身を寄せました。島村ではこの名人や、大阪文楽で学んだ加藤要などの指導を受け、文楽の演目を徐々に広げていきました。

鎖国という永い眠りから覚めた明治初期、まだまだ世情が不安な時代に、文楽は人々の心を和ませたものでしょう。島村に現在も伝わる文楽は、三番重しや壺坂靈験記など、「八百屋お七」など世話物に使われる人形や衣装も市の文化財に指定されています。

北方代官所とはしよつ踊



北方代官所跡

東海道本線が木曾川の鉄橋にかかるころから東西の堤防付近にわたって、江戸時代には北方代官所と川並奉行所がありました。川並奉行所は木曾川の水運と治水の管理をする尾張藩の役所。北方代官所は学問所や道場、矢場、鉄砲部屋などももつ尾張藩の代官所でした。鉄砲部屋や西木戸など、現在もこの地に残された地名は、歴史の首みを伝えるもの。そんな北方の町には愛知県の無形民俗文化財に指定されている、「はしよつ踊」が伝

気ままにJOURNEY

えられています。背中にクジャクの羽のようなはしよつを背負い、胸に太鼓をかかえて踊るはしよつ踊は、雨乞いを願った芸能。眼前に雄大な木曾川が流れるこの町でも、干ばつに苦しむ時代があったのでしよつか。はしよつは、竹を二二本に割り裂いて二二か月を意味させ、雨乞い祈願の時は白雨、雨が降り願いが叶った時ははしよつの色を五色に替え、唄も豊年踊りの唄に変えられました。背丈の倍以上のはしよつを揺り動かしながら、「トモナスなかけ声」ともに踊るはしよつ踊は、さすがに伝統芸能。この雨乞い踊りは、美濃や近江、近畿地方にまで分布しており、この地区は東限にあたります。その独特な分布圏からみて注目すべき芸能だといえま



はしよつ踊(県指定無形民俗文化財)

七つ石の伝説



剗研石 七つ石(市指定史跡)

このなかでも特に大きな岩が七つあるところから、俗に「戸塚の七つ石」と呼ばれています。この七つ石が何なのかにについては、諸説があります。巨石崇拜のものだろつとか、大きな石を並べその中を神聖な場所とした「磐境」(神社のもの姿である)つとか、古墳の石室がくすれたものだろつとかいわれています。そのなかでも、この七つ石を「剗研石」と呼ぶ伝説があります。その昔、ヤマトタケルが伊吹山征伐に向かう際、この石で剣を磨いたと伝えるものです。

春は祭りの饗宴

木曾川の堤防が爛漫の桜で埋めつくされるころ、一宮では各地で祭りが開催されます。桃花祭は真清田神社の例祭。祭りの始まりは、桃の花が咲く陰暦の三月。参詣者が桃の木の枝を木曾川の水で清め短冊とともに神前に備えたもので、桃花会とも短冊祭ともいわれています。祭りの圧巻は、神輿を中心にとりどりの飾り馬具を乗せた駄志馬、騎馬武者などの行列。その華麗さに見物客からため息



石刀祭(市指定有形民俗文化財)

一宮市 EVENT INFORMATION

桜まつり 大江川緑道 4月上旬

大江川両岸に整備された大江川緑道は、水と緑に親しむ市民の散策路。約300本もの桜並木が続く桜の名所です。桜まつりの期間中はライトアップされ、その美しさは幻想的。この期間中の日曜日には、ミス七夕・ミス織物のパレードなども行なわれます。他にも青木川の桜、浅井山公園、稲荷公園、木曾川堤の桜など、見どころは盛りだくさん。桜を中心とした春のまつりが一宮各地で開催されます。



一宮市 EVENT INFORMATION

- 桃花祭(真清田神社他 大宮、本町他).....4月3日 桜まつり (大江川河畔 大江、桜、泉他)【青木川河畔 千秋町佐野】【稲荷公園 八幡】(浅井山公園 浅井町東浅井)【木曾川堤 大字光明寺他】【真清田神社 真清田】.....4月1-10日
- 石刀祭(石刀神社 今伊勢町馬寄).....4月19日以降の最初日曜日 いちのみやりパーサイドフェスティバル (国営木曾三川公園138タワーパーク 大字光明寺).....5月上旬の4日間 チンドンまつり(萩原商店街 萩原町萩原).....5月第4日曜日 おりもの感謝祭一宮七夕まつり(市内).....7月第4日曜日 中心に5日間 黒岩提灯まつり(石刀神社 浅井町黒岩).....8月上旬 白台まつり(瀬部八剣社、観音寺 大字瀬部).....8月16日 市民花火大会(光明寺公園 大字光明寺).....8月第4土曜日 芝馬祭(白山社 大字浅野).....旧暦8月1日 甘酒祭(八幡社 丹陽町重吉).....10月第4日曜日 おいち祭り(本町商店街 本町).....10月下旬 ジャパン・テキスタイル・コンベンション (ファッションデザインセンター 大和町馬引).....11月下旬 お天道祭り(大日寺本堂 和光).....11月最終土・日曜日



交通のご案内		
名古屋方面から	名古屋	尾張一宮
	JR東海道本線(10-16分)	
	名古屋	新一宮
	名鉄名古屋本線 特急(14分)	
岐阜方面から	岐阜	尾張一宮
	JR東海道本線(8-15分)	
	新岐阜	新一宮
	名鉄名古屋本線 特急(10分)	

お問い合わせ
一宮市役所・商工課
〒491-8501 一宮市本町2-5-6
TEL0586-73-9111(内線2455)

液状化を引き起こした 東南海地震の被害状況

東南海地震の発生は半世紀前。
伊勢湾北岸では1m以上の地盤沈下や、
液状化による噴砂・噴泥水が発生しました。
戦時下であったことから、詳細な資料は残されていません。
木曾三川河口部に住む長島町の方々に、
当時の模様を語っていただきました。

噴砂泥水を引き起こした 液状化現象

昭和十九年二月七日二時三十分頃に発生した東南海地震は、熊野灘に震央をもつマグニチュード8の大規模地震でした。津波が各地に襲来し、波高は熊野灘沿岸で六〜八m、遠州灘沿岸で一〜二mでした。

被害は静岡・愛知・岐阜・三重の各県に多く、滋賀・奈良・和歌山・大阪・兵庫にも小被害がありました。

東南海地震の特徴として、地盤沈下が挙げられます。愛知県では三河湾沿岸から伊勢湾北岸にかけて沈降の地変がみられ、その最大量は四〇m。三重県の木曾三川下流域では最大一〇〇m以上とも言われています。

地震に伴って、地盤沈下のほか地割れや陥没が生じ、噴砂・噴泥水などの現象が各地でみられました。このような現象は地盤の液状化現象によって生じたものと考えられており、昔から大地震の度に「ちやんぱん」に噴砂泥水のあった記事が残されています。

昭和三十五年に発生した新潟地震も著しい噴



被災の状況を語る

・堤防がなくなり、畑から川に浮かぶ舟が見えた。(いもは堤防に遮られ川は見えない状況)
・家の前の畑に幅二〇mひび割れが堤防に並行に入った。そこから青白い水が噴き出し、硫黄臭がした。
・千倉排水機場の煙突が折れた。
・七、六〜八、四m付近は、現在の堤防ができる以前は、赤池という名の池があり、沼地であった。
・揖斐川右岸四、六〜六km / 住吉・伊勢大橋周辺
・堤防天端で幅二〇〜五〇m、深さ約二m、延長五〇〜一五〇mのひび割れが数ヶ所できた。
・桜並木の堤防天端の半分(約二m)が崩れ、桜の木は堤内側に倒れた。

体験者が語る被害の実態

・長島町の木曾川三河口部に住む地震体験者は、当時の模様を次のように語っています。
《地震前の状況》

長島町最南端に位置する松蔭や白鷄地区は、江戸時代に開発された干拓地で木曾川・揖斐川(長良川)伊勢湾に面しています。当時の河岸には砂浜があり、海岸は干潮になると一km以上も砂浜が続くような遠浅でした。この松蔭・白鷄地区は、比較的微高地で農耕のために、輪中地帯特有の堀田を造成しなくてもよい水田もありました。
干拓中の堤防は現在のような大規模なものではなく、法面が生える竹藪が、堤防の強度を高めていたようにです。
《波打つ地面》

「西風が吹いておいて田起こしをしてあったら

地震後の堤防修理

「農繁期以外は堤防仕事ばかりでした。輪中には堤防修理用の土砂はないので、揖斐川や木曾川の洲の泥を大きな舟で運んでもらい、そこからいもで肩に掛けて運搬しました。堤防の高上げをしたんです。これらの作業は多くの女性の手で行なわれました。
「当時は、第二次世界大戦中で、農作業従事者が激減していたので、地方地方に農兵隊という組織があって農作業や堀田作業の応援をしていました」

「あの時は作業員の給料はありませんでした。自分たちの堤防を直すというので、村かふただだ役と口づつ触れが回ってくる。作業にできました。今はいいです。建設省がやってくれますからな」

「堤防修理のための土砂は『一番山』と呼ばれる木曾川の中洲から採取し、干潮時に舟で運搬、堤防に開いた穴を埋め、法の補強をしました。張り付けた土砂は雨で徐々に流れてしまい、本体があらわになった堤防が伊勢湾台風時まで多く見られました」

「このように地震による被害は堀田造成に加え、排水の困難さ、海水の遡上及び塩水の浸透問題をもたしました」

災害は忘れたころに 必ずやってくる

戦時下に発生した東南海地震はその復旧はもろもろのこと、多くの弊害をもたしました。なかでも、中京地区の軍需工場の倒壊はその機能を停止させ、戦局を左右したとまでいわれています。

液状化を引き起こした東南海地震と同型のこの地域の地震としては、安政地震(一八五四)が挙げられますが、やはり同様に遠州灘や伊勢湾臨海部で噴砂・噴泥・噴水地のあったことを記録しています。それ以前の宝永地震(一七〇七)も同型です。
地震は長いタイムスケールで見た場合、特定

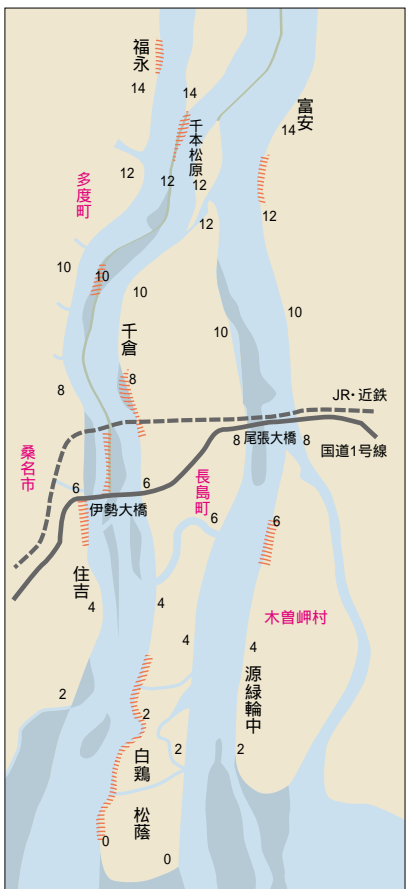


図1 被害が多く発生した区域(昭和22年頃の地形・数字は河口からの距離)

「下からもくし上げたので、水路に浮かっている舟が、普通の人が歩く道より高いところから上がってしまっって、田んぼはだんだん低くなっています」

「田んぼの畝も溝も蛇が這ったみたいにぐちゃぐちゃになってなくなりました」

《津波》

「家の玄関を出たら隣の屋敷まで大きな地割れが一本通りました。深さは2間の竿を突っ込んで届かなかった。家や小屋が9棟程倒れた。地割れが家にかからたから倒れたと聞いた」

「ちやんぱん」海でウナギ漁の網を上げにいったんですが、海に入った当初の海面は腰程度の高さ。そしたら網がぐつと持ち上がり、津波が来たとあわてました。そつ思っ間もなく、海面が首まで高くなりました」

「石臼けつ方法で行なわれるウナギ漁は、干潮時に行なわれます。したがって、地震発生時は干潮だったと思われます」
《堤防の陥没》

「松蔭地区で一番地盤沈下したところでは、



東南海地震における名古屋市南区道徳工場(三菱航空機)被害

「一度に渡るトルシ」地震や台湾地震、こうした悲しい被害を少しでも軽減するために、日頃から防災を心がけましょう」

参考文献

- 『昭和十九年二月七日東南海地震の震害と震度分布』
- 『著者飯田汲事愛知県防災会議発行一九七八年』
- 『震害に教えられて』
- 『著者梅村魁技報堂出版発行一九九四年』
- 『昭和十九年二月七日東南海地震による被害住家と地盤条件』
- 名古屋市防災会議発行一九七八年



東南海地震 三重県尾鷲港における津波被害船乗り上げ家屋破壊

一九七六年駿河湾を中心とする東海地震の発生が話題に上ってから三年になります。幸いにもまだ起きていません。この地震の規模はM8級で、何時起きてもお不思議はないといわれています。地震の軽減を図るため、地震の前兆現象をとらえて地震を予測する計画が進められ、地震関連の観測網が駿河湾周辺地域に整備強化されてきました。そのため地震予測の可能性が高いといわれ、大規模地震対策特別措置法が施行され、地震対策緊急整備事業に係る国の財政特別措置や地

震予知情報として、気象庁長官に報告され、気象庁長官から内閣総理大臣に報告、総理大臣から警戒宣言が発令されるようになってきました。この地震が発生する場合は、木曾三川中下流周辺地域は震度五程度となり、二〇m程度の地盤の沈下や移動が起こり、場所によっては液状化現象も発生するであろうと思われれます。

一九九五年兵庫県南部地震では地震予知はできませんでしたが、地震を予知することは容易でなく、さらに研究の必要があるといわれるようになってきました。また、兵庫県南部地震でできた地震断層により、地震と活断層との関係が注目され、調査されるようになってきました。想定東海地震は今すぐ起こるといって確認はないようですが、既往の東海大地震の特性を考えますと、いずれ遠州灘まで広がった海域で起こるのではないかと推測されます。中部地方の地震活動は約一〇年にM6以上の地震が一〇回程度の割合で起こっています。このよう

東海地震の予知と木曾三川周辺への影響

この地震の被害は多方面に亘って大きく、主に愛知・静岡・三重の各県での被害が最も多かったです。(表1、図2)。全体で死者一、二五一人、負傷者一、九七一人、家屋の全半壊八、三六三戸・流失二、九二二戸の被害となり、また、既往の東海地震と同様の大被害を与えた巨大地震であって、駿河湾西岸及び湾内にも地変を起しており、昭和東海大地震といえるのであります。



東南海地震 東海道線磐田-袋井間の鉄橋から転落した貨車

な地震が起きた場合は木曾三川中下流周辺地域は一九四四年の東南海地震またはそれ以上の地盤沈下が発生することもあるであろうと思われれます。地震発生や予知は今後の研究に待つことが多くいと思われれます。

地震のときは、河川流域や臨海地域の沖積地盤は揺れやすく、震害も起こりやすいと思われれます。地震は不意に起こりますので、不断の用意が大切であります。地震防災の基本は、各地域の地形や地盤・地震動や震害の特性を知り、過去の地震の教訓を生かして防災的措置をすることであり、すなわち、個人的には我が家の耐震診断を行い、家の基礎や家具の安全をはかること、災害から身を守り、非常用持ち出し品の用意、消火・避難など人間行動を予め計画し、慌てず活動できるようにしておくことでもあります。正しい地震情報を常に把握するため携帯ラジオなどを用意し、津波の恐れがあるときは、海岸付近では避難を考へることが大切であります。

東南海地震の特徴と分析

東南海地震の発生は戦時中でしたので、その社会情勢上での新聞も小さなスペースで被害は軽微と報道し、地震の調査報告書も極秘として扱われた関係で、統一的な地震名や震害の程度もわかりませんでした。震害の大きかった静岡県袋井や掛川地方では、磐田地震長野奥諏訪では諏訪地震と呼んで、勝手に被害の多い地名を地震名とした所もありました。米国では被害場所などを大きく報道したように、中央気象台でも初め遠州灘地震として秘扱いで概報を出したものの、東南海の両道にも被害のあることがわかったので東南海地震と名付け、志摩半島沖に震源を想定しました。

お問い合わせは KISSO 編集 連絡先 FAX 0552-571-8667

治水事業の必要性を理解していただくために、具体的な要望がございましたら、とんとんお寄せください。

アンケートのお願い 河川整備に関するアンケート調査を実施しています。ご協力が頂ける方にはアンケート用紙をお送りしますので左記にご連絡下さい。

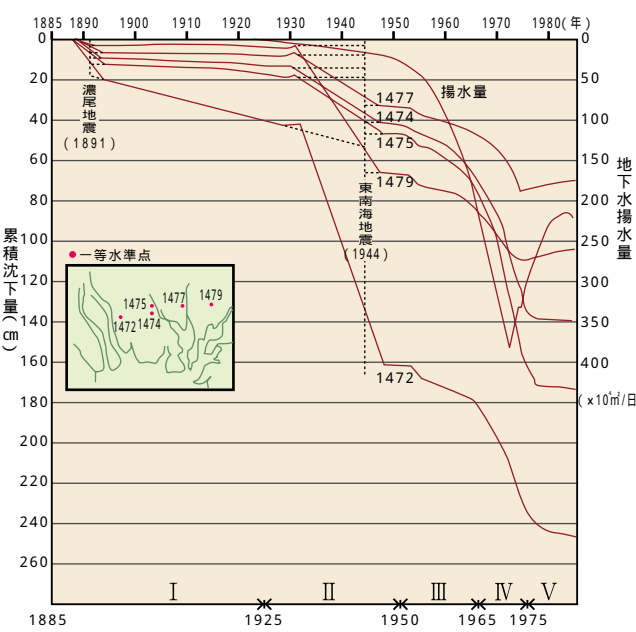


図1.濃尾平野南部臨海地域における一等水準点の地盤沈下と地下水湧水量の経年変化並びに地盤沈下形態の分類(-V)。

この地震による被害の特徴は、名古屋市中心部の道徳・築地や半田市、浜松市や浜名湖南部、津市などにおける軟弱沖積地に建てられた紡績工場からの急造軍需工場多数が倒壊し、従業員のほか各地から動員されていた学徒・女子挺身隊・徴用工らが多数亡くなり、軍需品の生産が頓挫してしまつたこと、工場の全半壊は愛知県〇九一棟、静岡県一四〇棟、三重県三棟ほどでした。静岡県大田川・菊川・天竜川等の河川下流域、伊勢湾三河湾等の臨海域、木曾三川下流域、大阪湾の臨海域などでは、地盤の液状化が多数の地点で発生し、それによって地盤沈下・移動変動が起き、構造物の被害をひきおこしました。また、三重県・熊野灘や伊勢湾北岸地域で三〇〜四

地震と地盤沈下

起っています。殊に液状化が広範囲にわたって発生し、噴泥水・噴砂現象がみられたり、同時に地盤沈下が発生しています。地盤沈下は水準測量によつて知られますが、濃尾平野で初めて行われた一八八五年から一九八四年までの九九年間の一等水準点測量成果(図1)から知られますように、地盤沈下があまり著しくない時代(一八八五年〜一九一五年)においては、一八八五年の濃尾地震があり、沈下変動の著しい時代(一九一五年〜一九五〇年)においては、一九四四年の東南海地震が発生しており、瞬時の地盤沈下がめだちています。これらから濃尾地震では九〜二二m、東南海地震では三〇〜一〇〇mほど地盤が沈下したことが伊勢湾臨海域における一等水準点の沈下量から知られたのです。なお、一八八五年〜一八九四年及



プロフィール: 飯田 汲事氏

明治42年長野県飯山市に生まれ、東京大学理学部卒業後、地震研究所助手、工業技術院地質調査所物理探査部長を経て、名古屋大学理学部教授、同大定年退官後名古屋大学名誉教授・愛知工業大学土木工学科教授、愛知工業大学客員教授となり現在に至る。地震学・防災工学専門。受賞: 地震学会(戦前)物理探査学会・国際津波委員会等より学術論文賞受賞。

地震のメカニズムとその特徴と今後の課題

び一八九六年における熱田から岐阜・関ヶ原方面に至る一等水準点の測量において、岐阜県北方町付近では約三cmの地盤沈下が濃尾地震時に観測されていますので、震源に近いほど地盤沈下量が大きいです。

〇mの地殻沈降変動が起こり、名古屋港や熊野灘での津波災害を大きくしたところなどあります。また東海道・関西・近鉄・名鉄の各線路の沈下・移動があり、磐田駅では貨車転覆し、天竜川・豊川・木曾川では、橋脚が亀裂して不通となり、さらに幹線道路の陥没などで交通運輸が殆んど途絶しました。天竜川鉄橋の復旧に約三月かかりました。以上のよう

県名	死者(含行方不明)	負傷者	住家		非住家		流失家屋	浸水家屋	主要災害
			全壊	半壊	全壊	半壊			
愛知県	461	1188	6968	19676	10178	4951		150	地盤・液状化
静岡県	317	900	6970	9522	4684	5563		208	地盤・液状化
三重県	389	608	1637	4217	1103	2299	2759	7579	津波・地盤
岐阜県	16	43	441	623	494	448			地盤
奈良県	3	21	89	177	234	214			地盤
滋賀県			7	76	28	38			地盤
和歌山県	51	74	121	604	46	63	153	1978	津波
大阪府	14	135	199	1629	124	63		2241	地盤・液状化
山梨県			13	11	14	3			地盤
石川県			3	11	6	8			地盤
福井県			1	2	2	3			地盤
兵庫県		2	3		23	9			地盤
長野県			13	49	1	2			地盤
合計	1251	2971	16465	36597	16937	13664	2912	12156	

表1 1944年東南海地震の被害総括表

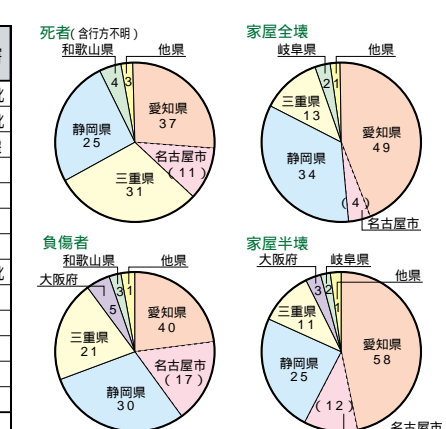


図2 1944年東南海地震の各府県被害率%

民話の小箱

雨ごいの竜

今から千年以上昔のお話です。

毎年のように洪水を起こすこの地では、

とても珍しいことに、まったく雨が降る気配が見えませんでした。

晴天続きに最初は喜んでいた村の人々も、

次第に顔を曇らせるようになりました。

そんな折り、弘法大師が真清田神社に訪れました。

干ばつを心配した村の人々が弘法大師に相談すると、

弘法大師は、茅で竜をつくり、一心に祈りました。

すると不思議なことに竜が動き出し、

「あなたがどんなに祈ってもだめです。

天下の竜はすべて竜王によって閉じ込められています。

もし、雨を降らせたら、どんな竜でも殺されてしまいます」と

いいました。

竜の悲しげな声を聞いた弘法大師は竜に向かって、

「この村の人みんなを助けるのだ。

なんとかおまえの力で雨を降らせてくれたら、

真清田神社の境内に祀ってやろう」と

呼びかけました。

「そんなにいわれるのなら、やってみましょう。

水の種を少しください」と

と竜は弱々しげな声で答えました。

それを聞いた弘法大師が硯の水を大地に注ぐと、

たちまち黒雲を呼んで大雨を降らせたのです。

ところが竜王の怒りに触れた竜は、

ずたずたにされ、天から落ちてきました。

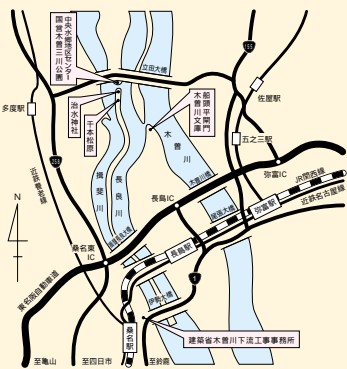
弘法大師はその竜を丁寧にかき、

約束通り、竜神としてお祀りしたそうです。

この竜神様は、今も、真清田神社の境内に祀られています。



木曾川文庫利用案内



《開館時間》午前9時～午後4時30分

《休館日》毎週月曜日・祝祭日・年末年始

《入館料》無料

《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分

名神羽島I.Cから車で約30分

東名阪長島I.Cから車で約10分

《お問い合わせ》

船頭平開門管理所・

木曾川文庫

〒496-0947 愛知県

海部郡立田村福原

TEL(0567)24-6233



編集後記

弊誌では、読者のみなさんの声で構成するコーナーを企画しています。身近で起こった出来事、地域の情報などをお知らせください。

宛先 「KISSO」編集 FAX(052)571-8627

今号の編集にあたって、一宮市のみなさん並びに飯田汲事氏に大変お世話になりました。お礼申し上げます。次回は、郡上郡八幡町を特集します。

木曾川文庫ホームページ

<http://www.kisogawa-bunko.cb.moc.go.jp>

表紙写真

上：ツインアーチ138

下左：一宮市の大江排水機場

下右：島文楽

『KISSO』Vol.33 平成12年1月発行

発行：建設省中部地方建設局木曾川下流工事事務所 〒511-0862三重県桑名市播磨81 TEL(0594)24-5715

木曾川下流工事事務所ホームページ URL <http://www.cb.moc.go.jp/kisokaryu>

制作：財団法人河川環境管理財団 〒450-0002愛知県名古屋市千代田区名駅四丁目3番10号(東海ビル) TEL(052)565-1976